

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	平成25年3月31日	評価結果市町受理日	平成25年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者お一人おひとりの思いや個性を尊重することで、毎日が明るく過ごせるように、日々努めています。共同生活の中で色々な場面での役割を持っていたきながら、生活に張りを感じられるように支援し、また、この場所が居心地良い、みんなできるとなぜか楽しいと思われるようにホーム内、ホーム外の行事を多く行っています。利用者の方々、職員とが毎日多く会話し、お互いにまたご家族とも多くの思ひ出を作り、家庭的な雰囲気づくりに心掛け、お互いが信頼できる関係でホーム内がたくさんの笑いで溢れるように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成25年4月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

お正月の絵馬奉納やお飾りづくり、福笑い、ひな飾りづくりなどの季節の行事、事業所敷地内の畑での花や野菜づくり、毎月利用者と職員と一緒に季節の飾り物をつくって事業所内の壁面に飾られたり、近くのお宮までの散歩コースで馴染みになった地域の人たちから大根や花の差し入れがある他、利用者の誕生日に希望にそって利用者と職員で個別の外出支援されたり、地域の行事に誘われ利用者と職員と一緒に参加されるなど、日常的な外出の機会やたくさんのお楽しみごとや活躍できる場面をつくって、利用者が地域の人々とながらながら、人として当たり前の感情が自然と表情に表せるような生活を営むことができるよう支援しておられ、事業所独自の理念「喜怒哀楽」を念頭に置かれ、理念の実践に努めておられます。利用者の日々の暮らしの状況は介護記録に詳細に記録しておられ、職員の意見や提案を記録する事業所独自のノートを活用され、利用者の思いや生活状況を把握され、利用者がよりよく暮らすためのサービスの質の向上へとつなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域の中での、様々な出来事や出会いがあり、沢山の思い出を利用者様、ご家族、また職員と作りながら、人としての喜怒哀楽表情豊かな日々を送っていただけるように支援を行っている。	職員全員で考えた事業所独自の理念「喜怒哀楽」を念頭に置き、人として当たり前の感情が自然と表情に表せるような生活を営むことができるよう、日々のケアの中で管理者と職員は常に心がけている。散歩コースを長距離で準備するなど、地域の中にある新しい発見を通じて、馴染んでいきながら、利用者が取り残され感を持つことなく地域の人々とつながりが持てるように支援し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は散歩や草取り、又は畑づくり等外に出て、今いる地域、この場所を居心地いいなと、ご自分たちで感じていただけるように努めている。ボランティアの方や見学者等多くの方の来訪が継続している。また、併設の特別養護老人ホームの入居者の方々とも定期的に関わりを持ち、顔なじみになっていただけるようにサークル活動や喫茶、イベントも企画に加わり協力しながら開催している。	事業所のすぐそばが地域の人の散歩コースとなっているため、近くの幼稚園児や住民たちと日々交流を持つことができる。利用者が散歩途中で知り合った地域の人が大根や花を届けてくれることモル。利用者がテラスに出ている時には、馬や犬を連れた人が立ち寄り、動物と触れ合うことができる。地域の子供相撲大会やしめ縄の架け替えなどの行事に誘われ、夕刻や早朝にもかかわらず、利用者と職員で参加したり、地域の文化祭に出店したり鑑賞に出かけることもある。法人主催の祭りには、地域住民を案内して共に楽しい時を過ごすなど、日常的に交流している。手芸ボランティアが毎月1回来訪し、エステボランティアやハンドベルボランティアとの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症啓発事業の委託を受け、自由の杜サロンも継続し、内容も様々なテーマで行っている。また施設見学も希望に応じてグループホームの特色を説明しながら実際見ていただき理解していただけるように努めている。個人での訪問も多くなり、ご自分のご家族が認知症でどのように介護したらよいかなどの悩み等を伺い、ホーム内でしばらく過ごしていただき、認知症の方に対するの関わり方等を見られ、気持ちが緩和されるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については意義を理解し、評価項目に基づいて施設運営を行っている。また評価を活かし、改善出来るところはすぐに行ない、今よりサービスの質の確保及び向上に努めている。	施設長、管理者、職員は、「地域密着型サービスサービス評価ガイド集」を読み、1年前から全員で話し合いを続けて、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解して作成している。評価を通して、日々のケアの振り返りを行っている。新人職員への情報共有、アセスメントの方法、ターミナルケアの在り方などについての課題に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行うに当たり毎回定期的に報告を行っている事故報告等のほかに、色々と報告する内容を変え、意見を伺いながらサービス改善に取り組んでいる。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告と行事報告、研修・研究発表の報告、ヒヤリハットや事故の報告、リスクマネジメント委員会の内容報告、外部評価への取組状況等について報告し、話し合っている。ターミナルケアへの取り組みについての意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者、介護保険室担当者には委員として出席をお願いし、事業所の運営内容をお伝えしながら、ご理解を求めている。また毎回会議の最後に情報交換を行なう場を設け意見や情報交換を行っている。	市の担当課には、日常の電話での問い合わせの他、運営推進会議時に話し合ったり、事故報告書提出など直接出向いて、助言を受けたり相談をしている。市主催の研修会への参加や、「高齢者を支える関係機関の連携を考える会」へ出席するなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵を締めず、外に出られる際には見守りを行っている。又各入居者様の居室にはテラスがあり、外にでて散歩される近所の方と話をされたりと、閉鎖的な環境を作らないように努めている。日常の関わりの中でのスピーチロックについては重く受け止め、職員がお互いに指摘しあいながら、取り組んでいる。また適切な往診や専門医に受診の際には細かな日頃の状況報告を行い、利用者にとって適切な服薬での安全な生活を継続していただけるように努めている。	身体拘束について法人研修で学び、職員全員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、「言葉のチェックシート」での自己評価を職員全員で取り組み、ミーティング等で指導するなど、気をつけている。玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のユニットミーティングで、毎回気になる対応法などをみんなで話し合いをし、思いもしないことが虐待につながることを理解しながら、その都度改めるように努めている。そのほか、施設内研修や法人内研修にも学ぶ場があり、参加をしている。また今年度は運営推進会議の委員でもある地域包括支援センターの方を招いて、高齢者虐待対応についての研修会も行い、学ぶ機会も持て参加をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。また参加できなかった者に対してもミーティングの際に説明し資料配布を行うようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結にはご家族とホームにて内容等の説明を詳細に行いながら、一つ一つ疑問や不安を解消しながらご理解を得るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情に対しての受付体制を作り第三者委員や受付窓口の担当者を明示し、契約時に説明を行っている。意見や要望等は職員間できちんと話し合いながら、運営内容に盛りこんで行けるように努めている。苦情は面会時に些細なことでも聞き取った者が管理者に必ず報告することとし、説明を行い、ご理解を得よう努めている。	苦情や相談の受付体制や処理手続きを定め、契約時に説明している。家族の相談や提案、苦情等は、その都度受け、管理者に報告して全体で話し合い、家族に返答をして理解を得るように努めている。行事内容の事前連絡についての要望があり、速やかに対応するなど、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	やりがいの持てる職場作りを心掛け、職員ひとりひとりの意見や提案が出せるように、記入様式を活用しながら多く取り入れている。毎月の行事担当や利用者担当等を職員が持ち、外出企画やホーム内行事、また担当している利用者のケア方法など、職員の力や個性が出せる機会を多く作るように運営している。	月1回のミーティングや、年3回の個別面談等で職員からの意見や提案を聞く機会を設ける他、日常の業務の中で職員全体の意見や提案を記述できる共有ノート「温故知新の書」シートを活用して、職員からの意見を聞いている。入居者の状態とケアについては利用者の担当職員が中心となり意見を出し、業務については壁画づくりや昼食づくり、外出行事、誕生会など行事担当者を中心に全体会議を開いて話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	週1回の統括会議において現状を報告し、職場の問題点を報告し、具体的な改善対策等法人幹部と話し合いを行っている。職員に対して定期的に話し合いの場を設け意見や希望を聞いたり随時相談は受けるなどやりがいの持てる職場づくりに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1日法人会議が行われ、いろいろな内容の研修を開催し、職員教育の場を設けている。併設施設との合同研修も行い、各職員のスキルアップに努めている。又外部の研修にも多く参加させ、復命報告を提出し、他の職員にも回覧して情報共有を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、認知症研修や介護技術研修など職員の希望や段階に応じて受講の機会を提供し、受講者は報告書を作成し復命している。毎月1回の法人研修、2カ月毎の併設施設との合同研修に参加している。内部研修は、毎月1回ミーティング時に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での研修会も多く参加者同士が顔見知りになり、良き相談相手として共に向上していけるように取り組んでいる。またグループホーム協会の勉強会等参加や、また市や県などの研修会などにも参加を推進している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人にお会いし、いろいろと会話を持ち、ご本人の表情を見ながら気持ちを感じとり、生活環境等その情報を職員と共有し、その人らしさを考え、まずは安心できる環境と安心できる職員との関係づくりを目標として取り組んでいる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にしっかりと情報収集を行い、ご家族の想いや要望を汲み取り、職員全員とも情報共有できるように努めている。また、入居後も面会は特に指定せず、多くきていただけるようお願いをし、ご家族との外出もお願いするようにしている。ホームの行事や外出行事にも参加して下さるように毎月お願いを続け、一緒にすごしていただくことで、現在の利用者の状況や様々な表情を見させていただきながら、お互いの信頼関係を行う様に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にはしっかりとご本人、ご家族の実情や希望に添えるように伺い、知り得た情報は職員も把握してサービスを行っている。入居後もサービス内容は変更が必要だと思われるその都度にスタッフ同士で意見を出し合いご本人に最適なサービスを行っていただけるように取り組んでいる。またチームでの情報共有できるように書面にて回覧しサービスの統一化に努め、ご家族にもご理解頂けるように変更内容の説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内は共同生活の場であり、ご本人の できることできないことを把握しながら、おひ とりおひとりの個性を活かしていただけるよう に努めている。家事も職員だけではなく入居 者の方々と一緒に行いながら、顔なじみの 関係づくりを行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時間は特に決めておらず、ご家族には 面会は多く来ていただけるように努めてい る。ご本人の現状をご理解していただけるよう に毎月状況報告を担当者が作成しお渡し している。また行事予定も送付し、外出行事 やホーム内行事にも参加くださるようにお 誘いをし、参加もいただいている。毎月ご本 人の表情を報告書と一緒に送付したり、定 期的にご本人に書いていただいたお手紙を 送ったりし、安心していただけるように努めて いる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由で、馴染みの方や知人の方の訪 問もあり、職員も中に入り情報が共有でき るように取り組んでいる。またお友達や知人 の方には、一緒に写真をお願いし、ご本人の アルバムに入れ、いつでも眺められるよう にしている。誕生日には職員と個別の外出を 行い、思い出のある場所や行きたい場所 にお連れするように計画し楽しんでいただ いている。	親戚や友人、知人、近所の人、馴染みのホ ームヘルパー等の来訪があり、利用者と一緒に 写真を撮って、アルバムに残したり、居室に 貼ったりしている。年賀状や暑中見舞い状、 季節の便りを書いて出したり、届いた手紙に は返事を書いて出すように支援している。誕 生日には、利用者と職員が個別に外出し、馴染 みの店での買い物や自宅に近い神社の梅 を観に行くなど、思い出の場所や懐かしい場 所を訪る支援をしている	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	集団でレクリエーションを行ったり、外出をし たり、入居者の方々が様々な場面で交流が 持てるよう取り組み、顔なじみの関係づく りができるように支援している。できること できないことを職員がしっかり把握し各々が気持 ちよく助け合えるように日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人の現状等に気を配り、把握できるように努めている。またお便りもお出しし、困られた時に相談していただけるようにこちらからの、アプローチを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の方々と会話を多く持てるようにし、聞きとった言葉はそのままの形で記録に残し、スタッフ間も記録を読むことでその方の思いや希望を共有できるように心がけるようにしている。また、毎日利用者様がどう過ごすかを決めていただけるように今日の予定ボードを利用し、こうして過ごしたいと出された希望に添えるように業務を考え行うよう努力している。	入居時に本人の思いや暮らし方の希望、意向について把握し記録している。日常生活の中で職員が聞き取った利用者の言葉をそのまま記録し、全職員で確認し、共有して、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関わりのあったサービス事業者やご家族、または知人の方に入居前の情報を多く集めるように努めている。また入居後も職員は訪問されたご家族や知人の方には色々なお話を伺えるように対応することを心がけている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体記録と経過記録の中に1日どのようにして過ごされたのかがわかるよう、記入する書式を作り活用している。チームでのケアに必要な記録を使用し職員が常に今を掴みながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフが担当者として自覚をもち、より良い生活を送っていただけるように、ご家族にも毎月状況報告を行っている。またミーティングの際には問題点や様々な案をお互いに出し合い、課題に向かい取り組む姿勢を常に行っている。	基本情報シートやセンター方式の情報を基に、利用者の要望や状態、かかりつけ医からの意見、訪問時や電話連絡時の家族からの意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをする他、利用者の状態に変化が生じた場合は必要に応じて見直している。月1回の全体ミーティングと日々のカンファレンスで利用者のケア内容を検討している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体記録と経過記録の中に1日どのようにして過ごされたのかがわかるよう記入できる書式を活用している。また職員は計画内容の見直しを随時行えるようにきちんと情報を記録に残す必要があることを認識し、ミーティングやカンファレンス等行い情報を共有し、サービスの充実を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題点や対応策など細かな変化に注意し、必要時には直ぐに環境整備など、共同生活を行っておられる方々のおひとりおひとりの人柄や身体能力も考慮しながら、適切なサービスが皆様に共通して行えるよう取り組みを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議でホーム状況を報告しながら地域の方々に、ご理解ご協力していただけるように努めている。四季折々を楽しめるよう散歩や畑仕事など、多く楽しみが感じられるよう支援している。また、地域での行事やイベントなどからお誘いもいただき、参加するように職員同士が意識を持ち、利用者の方と一緒に楽しめる機会を多く持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が2週間に1度往診を行っている。また、ご本人の状況変化に伴いご家族との話し合いをし必要であれば、専門医への受診の調整を行い、職員とご家族と一緒に受診を行い、ホーム内での状態の報告をし、ご家族にも現在の状況を理解していただけるように努めている。	利用者や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1度の往診がある。他科受診は協力医療機関の医師の紹介状と、事業所の受診記録、対応経過記録表を持参して家族の協力を得て支援をしている。受診結果を家族に伝え、情報を共有しているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、訪問看護が来て体調管理を行っている。往診時の内容も記録を見て、薬の変更や指示等確認し、今後起こりうるリスク管理の必要がある場合は職員に指示を行っている。日常の介護の状況は細かに記録に記載しているので内容を確認してもらい、相談や必要な指導も受けれるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームからの情報の提供を詳細に行う様になっている。またご本人に多く面会に出向き、状態の変化の確認をし、看護師等に情報の提供を求めるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に意向を伺い、希望に添えるように支援を始めることとしている。また定期的にご家族と話し合う機会を設け、以前の考え方に代わりがないかを確認し、様々な選択肢もお話をしながら、できる限り、ご本人やご家族の意向に近づけるよう取り組みを行う様にしている。	契約時に、「重度化した場合における対応の指針」を基に説明し、同意を得ている。年1回の家族会で、併施設等の様々な情報を伝え、実際に重度化した場合には、家族、かかりつけ医、関係者と話し合い、方針を全員で共有して、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	入居者の日々変わる状況をその都度、事故防止について当日の職員と管理者が意見交換をし対策を行い、他の職員にも情報が共有できるように書面にて把握できるようにしている。また毎月のユニットミーティングで、問題点をあげ、事故対策については話し合い、職員のリスクマネジメントアップを図っている。1週間に1度の訪問看護の際に職員は色々なことについて、対応法や直接アドバイスをもらい、そのことを他の職員にも伝え日々の業務に生かしている。勉強会も定期的に行いながら身につくように取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、その場の職員で対応し、その都度管理者と当日の職員で対応策を検討し、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。「緊急時の対応の仕方」の資料やDVDで学習し、AED操作法や普通救命救急講習を受講する他、新人職員は救急救命講習に参加している。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な火災や風水害、夜間想定避難訓練を行い、全職員が避難経路や方法等を身につけるように努め、ミーティングでも話す場を設けている。また運営推進会議で地域の方々にも報告も行い、話し合う場を作り、協力をその都度お願いを行っている。	消防計画を整備し、併設施設と合同で防災訓練を年3回実施している。年2回の火災時想定、年1回の風水害時想定訓練を実施している。地域との協力体制は築いていない。	・地域の協力体制の構築	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホール内での声掛けには職員は常時気を配りながら、ご本人に不愉快な思いを残さないように努めている。定期的に言葉のチェックシートを用い職員は自分自身を振り返るように活用している。	法人の接遇研修で学び、ミーティングでも職員同士で確認して、人格の尊重とプライバシーの確保について、職員は理解している。利用者に敬意をはらって接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応等があれば、管理者が注意し、指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホールに今日の予定ボードがあり毎日朝、今日は何がしたいか、何をして過ごしたいのかを考え決めてもらうようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定ボードを使いながら、おひとりおひとりに今日は何をして過ごしたいのかを伺い、入居者のかたの自己決定を予定と考え、可能な限り職員は希望に添えるように支援するように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはご自分でどれがいいかを選んでいただき、お化粧品もされる方は必ずされ楽しんでいただけるように支援している。また1ヶ月に一度美容院の方に来ていただき、毛染めやパーマも希望に添えるようお願いをしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け配膳など、入居者の方と一緒にいき、一緒に食事を食べ、一緒に片付けも行っている。また月に数日昼食の日を設け、献立も希望を入れながら立て、食事作りも行っている。	三食とも法人からの配食を利用し、利用者は食器やおしぼりの準備、盛りつけ、食器洗いなどを、職員と一緒にしている。毎月1～2回「昼食の日」として利用者の希望に沿った献立(すき焼き、手巻きずし、おでんの日、海鮮鍋、そうめん流し等)をたて、買ってきた物や事業所敷地内の畑で収穫したスイカ、トマト、カボチャ、さつまいもなどを利用して、調理して、一緒に食事を楽しんでいる。弁当を作って庭のベンチで食べたり、ゼリーや牛乳寒天、おはぎ、ホットケーキ、ミックスジュースなどのおやつづくり、季節の行事食、誕生日には利用者の好物のてんぷらやハンバーグ、刺身などの外食をしたり、イチゴ狩りやりんご狩りなど外食を兼ねた外出など食べることを楽しめるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量が把握できるように書式を作成しており、状況に応じて食事形態も変更を行っている。また、排泄の状況にも注意を払い、体重測定を行い、増減にも気を配りながら、体調の変化が無い様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、皆様に対して、歯磨きを促している。また個々に対してどこまで支援をすれば良いのかを担当者が把握し、他のスタッフも情報共有を行い、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを使いながらおひとりおひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄用品の選択や失禁対策を常に行っている。おむつの使用は基本的には無しとし、使用枚数等の集計も取り、増減に対しての認識も持てるように努めている。	24時間シートを活用して、排泄パターンを把握し、利用者ひとり一人に合わせて、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を職員は把握し、日中の水分量にも気を配っている。また、おやつ等排泄に繋がるように考えながら、提供を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はみなさんに対して基本は毎日と考えて、支援を行っている。また、拒否がある方の対応も午前午後を問わず、ながく入浴拒否が続かないように職員同士の連携が持てるように努めている。記録にも施行、未施行、拒否の記載を残し、職員にもやるべき事の自覚が持てるようにしている。	入浴は毎日いつでも可能で、ゆっくり入浴が楽しめるように支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホール内にくつろげる場所を設け、安心してうたた寝されたり出来るように環境づくりを行っている。夜もソファで寝られたりもあり、ベットで寝ることを基本とせず、その方の安心出来る場所を優先し支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが服薬に関して携わる事があり、服薬確認を行い記載を残している。また服薬内容や容量等も確認出来るようなチェック表があり、薬をセットする際にお一人おひとりの服薬内容の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、ホーム内行事や外出行事を企画し行っている。ホーム内行事は入居者の方も役割を持っていただけるように企画し、一緒に楽しめる機会を多く作っている。昔は皆さんが当たり前だった畑がある生活にも着目し、自給自足の生活が感じられるよう畑づくりや花のある環境づくりも行っている。また日本古来の伝統行事や風習、季節ごとの取り組みも行い、昔慣れ親しんだことや、昔撮った杵柄が表に現れるように取り組んでいる。	正月の絵馬奉納、福笑い、かるた遊び、雛飾りづくり、五月飾り、七夕飾り、敬老会、忘年会、お飾りづくり、しめ縄づくり、ゲーム大会、スポーツテスト、フルーツ演奏鑑賞、懐メロコンサート、歌声喫茶、出会い茶屋、習字、貼り絵、ゲートボール、卓球、計算ドリル、家族と一緒に魚釣りやエビ釣り、毎月1回手芸ボランティアと作品づくりをしたり、食事づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、布団干し、草取りなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームから近くのお宮までの散歩コースがあり、天気がいい時は外へと出かけたり、外でレクやお茶も楽しめるように努めている。外出行事も毎月必ず行い、外出日を楽しみにして過ごしていただけるようにお知らせをホーム内に掲示している。ご家族にも事前にお誘いをし、一緒に過ごしていただけるように努めている。	近隣への散歩や買い物、お宮参り、地域の祭りへの参加の他、季節の花見(寒桜、しだれ桜)、ドライブ(錦帯橋、徳山動物園、瑠璃光寺、阿知須ひなもん巡り、阿弥陀寺、秋吉台サファリランド、防府昭和館等)など外出の機会を沢山作っている。利用者の誕生日には、利用者の希望する場所に職員と個別に外出するなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、お小遣いをお渡しし、お買い物をしていただけるようにしている。またお金を所持しておられる方もあり、手元に残りが僅かな場合少しでも持ちたいと言われる方に関してはご家族とも話し合いながら、状況により対応を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方に電話をしたり、またお便りが届けば、返事を書いていただいたり関係が継続出来るように支援している。ご季節ごとにお手紙を直筆でかけるところは書いていただき、ご家族へお便りを出していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設だけど施設らしくないように、玄関やホールなど生活感が感じられるように、工夫している。春夏秋冬、また月ごとに、入居者の方とスタッフが共同で毎月壁画など制作し、ホール内の掲示物や飾りつけを入れ替え装いを変えている。	共用空間は広く明るく、オープンキッチンがあり、食卓テーブルやソファ、テレビ、椅子などを配置し、壁面には利用者と職員とで作った季節に合わせた作品を飾り、利用者が自由に居心地良く過ごせるよう工夫している。ソファを各所に配置して、利用者の好みに合わせて模様替えをし、腰かけたり横になったりできるように工夫している。室内は、加湿器があり、温度、湿度、換気に配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは固定配置をせず随時入居者の方の状況に合わせてどこかに心地のよい場所があるように考えながら配置を変えている。食事の席も固定はせず、テレビを見ながら食事をするなどホームは家の生活と同じだという考えを職員が持ちながら創意工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はおひとりおひとりが家での生活と同じように家具等持ち込んでいただき、個性ある居室内で居心地良い環境になるように工夫している。また身体状況に合わせての配置変換は行っているが、ご本人の力を活かせる環境づくりを考え、ご家族に状況の報告をする際に配置の変更は、なぜなのかを説明を行ない理解を求めているようにしている。	寝具や使い慣れたタンス、鏡台、化粧用品、イス、衣装など好みのものを持ち込み、壁には誕生日の写真や家族の写真、カレンダーを飾り、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札をかけ、ドアの周りにご本人の行事等の写真を貼りご自分でわかり易いようにし、またその他のドアにも案内板を貼ったり、見やすい所に矢印でわかる様になっている。またご本人の状況に合わせて、自分のことは自分でと考え洗濯物等干したりたたんだり出来るように個別でいろいろなことを工夫して取り組んでいる。		

2. 目標達成計画

事業所名： グループホーム自由の杜

作成日： 平成 25年 11月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	特に夜間帯は1名のスタッフで業務にあたっているが、実際に急変時に適切で冷静な判断の対応が職員全員ができるかどうかは問題である。定期的な研修、及び実践が必要で、スタッフ自身もスキルアップしていこうと取り組んでいかなければいけない。	すべての職員が改めて、緊急時の対応法を学び、日々の業務に活かせるようになっていく。	緊急時の対応法についての研修会を行う。スタッフも自分自身のケアの質のための向上に、努めていけるように、ミーティング時等に疑問や質問等を出して、全員で検討していく。	12ヶ月
2	36	施設で定期的に避難訓練は行っている。運営推進会議の際に自治会長や民生委員の方には行った内容の報告は毎回行い意見を求めている。災害時は特に夜間帯は勤務のスタッフも少なく地域の方々の協力を得られれば、対応するスタッフ及び入居者の方も心強い。	地区の方も参加され、一緒に訓練を行えるようになり、協力体制を築く。	自治会の方にも呼びかけを行い、合同で避難訓練を予定し、参加していただけるよう、取り組んでいく。地域行事にも参加をしながら馴染みの関係づくりも継続する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。